

令和4年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み
-------------------	--	----------	--

評価基準 A：十分達成(100%) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(60%程度) D：まだ不十分(40%程度) E：目標・方策の見直し(30%以下)

年 度 当 初			最終評価					
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1	学力の向上	① 授業改革と学力の向上	○学校評価アンケートで、「私は授業に満足している」とする生徒の割合が3年間で上昇している(R3:82.5%、R2:76.8%、R1:70.4%) ○ICT機器を活用した授業が徐々に浸透している ○鳥工版STEAM教育の基礎を確立している ○基礎力診断テストを活用し、生徒の状況に応じて補習等を行っている	○学校評価アンケートで、「私は授業に満足している」とする生徒の割合が80%以上を維持している ○ICT機器を活用しながら、生徒がよく学んでいる ○鳥工版STEAM教育を通して、生徒が教科横断的・融合的によく学んでいる ○基礎力診断テストの評価が向上している	○先端分野の導入など、生徒が夢中になるおもしろい授業実践に取り組む ○ICT機器を活用した授業実践に取り組む ○鳥工版STEAM教育の授業実践に取り組む ○基礎力診断テストで学力を把握させ、授業への取組みに反映させる	○各教科で授業の工夫改善に努めた。「授業に満足している」とする生徒の割合が86%(目標値80%以上) ○授業でのICT活用が浸透しつつある。「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が67% ○STEAMLabの整備、STEAM教育研修会、公開授業など、STEAM教育の実践に向けて取り組んだ ○基礎力診断テストの結果を分析し現状把握に努めた	B	○授業公開等を通して、授業をより改善するための意見交換を各教科で継続する ○教科会等を通して、ICT活用例を積極的に共有する ○STEAMLabを積極的に活用しながら、研修会や公開授業で得たものを各教科で応用・実践する ○基礎力診断テストの結果を教科会等で分析し、授業にフィードバックする
		② 主体的な学習態度と実践力の育成	○授業の規律を周知し、その必要性を認識させている ○自ら学ぶ意欲が高まるよう、授業を工夫している ○面談を随時行い、日々の自宅学習に真摯に取り組むよう指導している ○面談や補習等を行い、資格・検定取得や進路実現に向けて学習を支援している	○規律ある態度で授業に臨んでいる ○意欲的に授業に臨んでいる ○予習・授業・復習・課題など、日々の自宅学習に真摯に取り組んでいる ○資格・検定取得や進路実現に向けて、計画的に学習に取り組んでいる	○予鈴着席の徹底など、授業の規律を周知する ○教養や関心の幅が広がるような授業実践に取り組む ○面談を随時行い、日々の自宅学習に真摯に取り組むよう指導する ○面談や補習等を行い、資格・検定取得や進路実現に向けて学習を支援する	○授業の規律を随時周知した。「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が89% ○各教科で知的好奇心を刺激する授業づくりに努めた。「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が86% ○面談を通じて、日々の自宅学習に対する姿勢を確認させた。11月自宅学習時間調査は1日平均117分(R3:100分、R2:80分) ○資格取得等に向けて補習の日程を組み指導を行った		○「生活指導方針」に基づき、授業規律の周知・徹底を継続する ○先端分野(Society5.0)やSTEAM教育を念頭においた授業研究を継続する ○担任・学年団等による面談をきめ細かく行い、学習意欲や進路意識を高める ○資格・検定の情報を生徒に周知し、面談等を通じて取得を促す
2	豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	○面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応している ○LHRや講演会等を実施し、生命の尊さや生き方の多様性等に関する考えが深められるよう努めている ○校外の人権教育関係研修会等の中止やオンライン開催等が相次いだり、可能な範囲で参加し、その成果を様々な場面で指導に活かしている	○悩み等を相談でき、一人一人が安心した学校生活を送っている ○一人一人が人権の尊重された学校生活を送っている ○日々の生活の中で人権問題に気づき、考えながら学校生活を送っている	○面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応する ○人権教育LHR、性に関する指導LHRを実施し、互いを尊重する意識を高める ○人権教育関係研修会等に積極的に参加し、その成果を様々な場面で指導に活かす	○面談、各種アンケート(ハイパー・QU・いじめ・生活振り返り等)、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等の早期把握と速やかな対応に努めた ○人権教育LHRや講演会等を行った。「互いを尊重し合いながら学校生活を送っている」とする生徒の割合が84% ○人権教育関係研修会への参加率は29%(1月末現在)	B	○面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応する ○人権教育LHR、性に関する指導LHR等を通じて、互いを尊重し合う意識を高める ○校内WEB掲示板等を通じて、人権教育関係研修会への積極的な参加を呼びかけ、参加者はその成果を様々な場面で指導に活かす
		② 健全な心身と社会貢献精神の育成	○各種安全教室、朝の交通指導、「5S」「あさひ」の指導等を行い、規律ある態度の育成を図っている ○部活動の大会中止が多い中、1月末累計で中国大会に75名が出場した ○テクノボランティアは実施したが、桜ヶ丘グリーンゾーン活動は中止となった ○2018年度比で2月末で可燃ゴミ排出量50.4%減、電力使用量2.1%減であった	○ルール、マナー、「5S」「あさひ」を心がけ、規律ある態度で学校生活を送っている ○多くの生徒が部活動に熱心に取り組む、大会等で活躍している ○社会貢献の意識が高まり、ボランティア活動等に積極的に参加している ○環境改善の意識が高まり、2019年度比で可燃ゴミ排出量5%減、電力使用量1%減となっている	○各種安全教室、朝の交通指導を行い、また「5S」「あさひ」について積極的に指導する ○ホームページや広報誌を通じて、部活動の成果や成績を積極的に公開する ○様々な機会を通して社会貢献への意識を高め、ボランティアへの積極的な参加を呼びかける ○可燃ゴミ排出量、電力使用量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を行う	○各種安全教室、朝の交通指導、「5S」「あさひ」等を積極的に行った。「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が94% ○部活動の中国大会に52名が出場した。ホームページを通じて成績や成果に関する広報はやや不十分で ○ボランティア活動に生徒21名が参加した ○環境改善目標の達成状況を公開し、校内への啓発を行った。電力使用量は常時換気の影響もあり、目標に到達していないものの、可燃ゴミ排出量は概ね順調に目標に到達している(1月末現在)		○各種安全教室、朝の交通指導、「5S」「あさひ」等の指導を積極的に行う ○ホームページだけではなく、その他の方法についても検討し、部活動の情報発信に努める ○ボランティア活動等を通して地域貢献に努めるよう、積極的に働きかける ○可燃ゴミ排出量、電力使用量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を積極的にを行う
3	キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	○企業見学と鳥工版デュアルシステムは実施したが、インターンシップは中止となった ○鳥工TECは実施したが、津ノ井地区文化祭、とっとりものづくりフェスタ、課題研究発表会等は中止となった ○資格・検定の取得に向けて指導を行い、ジュニアマイスターの特別表彰を受賞した	○専門的知識・技術に加え、社会人としての資質を身につけている ○学習成果の発表・展示に向けて、生き生きと「ものづくり」に取り組んでいる ○生徒全員が資格・検定を取得している	○企業見学、鳥工版デュアルシステム、インターンシップ等を行う ○鳥工TEC、津ノ井地区文化祭、とっとりものづくりフェスタ、課題研究発表会等において、学習成果の発表・展示を行う ○資格・検定の取得に向けてきめ細かく指導を行う	○企業見学は3学年とも実施。鳥工版デュアルシステムは機械科・電気科で実施。インターンシップはコロナ禍により実施できなかった ○鳥工TECや課題研究発表会等において学習成果の発表・展示を行うなど、ものづくりに熱心に取り組んだ ○一人一資格取得率・検定合格率は全体で88.0%(3年95.1%、2年90.5%、1年74.1%)	B	○企業見学、鳥工版デュアルシステム、インターンシップ等を通じて社会人としての資質を高める。進路指導や授業において将来の進路について意識させる ○実習や課題研究等での指導をさらに充実させる ○一人一資格取得・検定合格できるよう継続的に指導する
		② 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	○校内外と連携し進路行事・進路指導を実施した ○就職一次試験の合格率96%、20名が大学に合格した ○学校評価アンケートで、「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができています」とする保護者の割合が上昇している(R3:68.7%、R2:65.4%) ○ICT機器を活用した、進路学習、情報の提供、受験対策などが充実しつつある	○自己実現・進路実現に向けた意識が高まり、生徒アンケートで肯定的意見が80%以上である ○就職一次試験の合格率90%以上を維持し、また推薦制度等を活用し大学に合格している ○学校評価アンケートで、「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができています」とする保護者の割合が70%以上となっている ○ICT機器を活用し、主体的に進路学習を行っている	○各事業所、外部機関等、校内外と連携・情報共有し、各進路行事を充実させる ○SPI・面接・小論文模試等、個々の就職試験や進学受験に応じてきめ細かく指導する ○進路行事や各種情報を保護者に周知し、また進路相談に対して丁寧に対応する ○ICT機器で進路情報の提供・活用ができるよう、環境を整備する	○「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が89%(目標値80%以上) ○就職一次試験の合格率は95%(目標値90%以上)。また推薦制度等を活用し、4年制大学に11名合格した ○「生徒一人ひとりに適したきめ細かな進路指導ができています」とする保護者の割合が80%(目標値70%以上) ○クローズドブックを活用した職業調べ、適性検査を実施した。またオンライン説明会、試験等に適切に対応した		○各事業所、外部機関等、校内外と連携・情報共有し、進路指導・各進路行事を充実させる ○SPI・面接・小論文模試等、個々の選考試験や進学受験に応じてきめ細かく指導する ○学年団と連携し充実した情報発信に努め、生徒や保護者からの進路相談に丁寧に対応する ○ICTを活用し、進路情報提供、WEBコンテンツ活用等ができるよう取り組む
		③ 地域や産業界との連携強化	○進路ガイダンス等の講師を各事業所から招聘し、地域の企業の現状や企業が求める人材について理解するよう図った ○ホームページや津ノ井地域懇談会等を通じて、学校の様子や特色等について積極的に情報発信を行ったり、意見交換を行ったりした	○地域産業を支え、地域の貢献する人材としての自覚をもっている ○教職員が学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している	○進路ガイダンス等の講師を各事業所から招聘する ○学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信する	○分野別進路ガイダンス(1・2年対象)を実施し、地域の企業の取り組みや魅力についての理解が深まった。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したいと思っている」とする生徒の割合が80% ○「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が77%		○進路ガイダンスの機会を進路選択に生かすよう、きめ細かな面談等を継続する ○ホームページ以外のSNSも併用した方法も検討する
4	業務改善の取組	① 5SとQCストーリーの実践	○分掌業務を円滑に引継ぐため、電子ファイルの整理・整頓を進めているが、複数の分掌が関係する特別活動について、業務マニュアルの整備が十分ではない ○部活動は実施計画書を作成し、部顧問で指導時間を調整しながら時間外業務の削減に努めている ○令和3年度に時間外業務が月45時間を超えた職員は、延べ11名であった	○分掌業務が円滑に引継がれ、担当者が変わっても滞りなく業務が遂行できる。また、特別活動の業務マニュアルが作成されている ○部活動の実施計画段階で、時間外業務が月30時間以内に抑えられている ○時間外業務が月45時間を超える職員が0名である	○電子ファイルの整頓を確認し、業務マニュアル作成を促進する ○部活動実施計画書に記載された時間を確認する ○勤怠管理システムの定期的な入力を促す。また、AI採点を導入し、業務効率化の一助とする	○電子ファイルの整頓、分掌の業務マニュアル化を進めた ○部活動実施計画書で時間外業務を確認し、月30時間を超える場合は調整を促した ○時間外業務が月45時間を超えた職員数は延べ13名となったが、年度後半はほぼゼロであった。なお、年間を通じて、時間外業務の前年同月比は概ね10%減少した ○AI採点については、今年度の導入を見送った	C	○分掌業務のほか、学校行事のマニュアル化を進める ○引き続き、部活動実施計画段階で時間外業務の削減につながるよう調整を進める ○勤怠管理システムへの入力を通して、時間外業務削減への意識づけを一層進める ○引き続きAI採点の導入を要望し、業務効率化を進める

注) STEAM教育：科学(S)技術(T)工学(E)芸術・文学・歴史・経済など(A)数学(M)を融合させた学び
 5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く
 テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動
 デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム
 QC(品質管理)ストーリー：問題解決の手順